

様式第7号ア(認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成の目標等に関する書類)

(1)大学・学科の設置理念

①大学

山口大学は、「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念に、地域の基幹総合大学及び世界に開かれた教育研究機関として、たゆまぬ研究及び社会活動並びにそれらの成果に立脚した教育を実践し、地域に生き、世界に羽ばたく人材を育成することを目的とする。

②学科等(認定を受けようとする学科等のみ)

工学部創成工学科では、特定の専門領域を深く学修するだけでなく、多様な学問領域を広く柔軟に学修することにより、「深い専門性と幅広い視野を併せ持ち、科学技術の発展とイノベーションを担う創造的な工学系人材」を養成することを目的とする。

創成工学科の教育体制は、分野に応じて大きく4つの系(機械系、国土・環境デザイン系、化学系、電気電子系)に分類し、各系のより深い専門領域に応じた教育コース(全10コース)を設ける。その教育体制のもと、系・コースの学びによる高い専門性を担保しつつ、1学科4系の体制を活かして各系を幅広く横断する授業科目を開講することにより、専門分野の深い知識・技能に加え、他の専門分野の幅広い知識により複合的な諸問題を俯瞰的に捉えて課題解決に取り組むことができる能力を養成するカリキュラムを構築する。ディプロマ・ポリシーと各系の教育内容は次のとおりである。

○ディプロマ・ポリシー

[1]幅広い教養と汎用的技能

1. 自然現象・社会・文化・経済と科学技術との関わりについて認識を持つとともに幅広い教養を身に付け、多面的に物事をとらえて柔軟に思考することができる。
2. 科学技術が社会や自然に与える影響を理解し、技術者・研究者としての社会的責任を自覚し、高い倫理観をもって行動することができる。
3. 国際的な視点を持ち、基礎的な国際コミュニケーション能力を身に付け、将来的に国内外でグローバルな活躍を目指すことができる。

[2]専門的な知識・技能

1. 数学、自然科学、工学及び情報・数理データサイエンスに関する能力を身に付け、数学的・科学的な手法を用いて課題を分析することができる。
2. 専門分野における十分な見識をもって論理的に物事を考え、社会課題を発見・把握し、的確に理解した上で、課題解決につなげることができる。
3. 特定の専門分野だけでなく、他の専門分野についても幅広く知識を得ることにより、複合的な諸問題を俯瞰的に捉えて課題解決に取り組むことができる。

[3]自律・協働する力と物事をかたちにする力

1. 新しい領域に挑戦する意欲をもち、自主的、継続的に学修することができる。
2. 表現力、説明能力を備え、協調性をもって課題を解決することができる。
3. 広く社会で活躍するために、自己を管理し、他者と協働する力を身に付けて課題解決に取り組み、専門分野の知識と技術を総合的に活用しながら、物事をかたちにするすることができる。

○各系の教育内容

機械系では、数学基礎と物理学、情報処理を学び、機械の運動、構造、エネルギーと流れに関する科目により機械工学の基礎知識を修得し、ものづくりの基盤となる設計工学、材料信頼性工学、医療生体工学、知能制御工学の専門知識と技術を身に付ける。

国土・環境デザイン系では、数学基礎や物理学、データサイエンス技術を学び、土木工学及び環境工学に係る科目により土木・環境分野の基礎知識を修得し、これらを基に構造・材料、地盤・土質、水・環境、情報・計画の専門知識と技術を身に付ける。

化学系では、数学基礎と化学基礎を学び、物理化学、無機化学、有機・高分子化学、生物化学及び化学工学に係る科目により幅広い化学の基礎知識を修得し、これらを基にエネルギー創成、創薬・バイオ及び環境・プロセスデザインに関連する専門知識と技術を身に付ける。

電気電子系では、数学基礎と物理学を学び、電磁気及び電気電子回路に係る科目により電気電子工学の基礎知識を修得し、これらを基に材料物性、半導体デバイス工学、情報通信工学、計測制御工学、電気エネルギー工学の専門知識と技術を身に付ける。

(2)教員養成の目標・計画

①大学

山口大学は「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」を理念に、地域の基幹総合大学及び世界に開かれた教育研究機関として、たゆまぬ研究及び社会活動並びにそれらの成果に立脚した教育を実践し、地域に生き、世界に羽ばたく人材の養成に努める。

私たち山口大学は、学校教育教員の養成を、本学の理念を具現化する最も重要かつ具体的な人材育成の課題の一つとして位置づけ、教職に相応しい質の高い人材の育成を組織的かつ持続的に輩出することを通して、地域の基幹総合大学としての使命を果たす。

山口大学では、養成する教員像を以下のように定め、教育実習や介護等体験実習等の全学的な取り組みを通じ、深い子ども理解・教員としての職業倫理・強い使命感など教職に相応しい素養を備えた「教育的実践力に優れた人材の養成」に取り組む。

教職課程を有する学部・研究科は、さらにそれぞれの専門性に立脚した高度な教科内容の知識・技能や教授能力を持った教員の養成に努める。

1. 教師としての強い使命感と倫理観を持ち続ける人
2. 子どもに対して教育的愛情と責任感を持てる人
3. 教育の専門家として、子どもに対する深い理解力と指導力を持つ人

②学科等(認定を受けようとする学科等のみ)

創成工学科では、深い専門性と幅広い視野を併せ持ち、科学技術の発展とイノベーションを担う創造的な工学系人材の養成を目的として、前述のディプロマ・ポリシーを掲げている。それらを実現するため、1年次の共通教育科目の学修により幅広い教養と汎用的技能を、1年次から3年次の専門科目の学修により各系・コースの深い専門的な知識・技能を養成するとともに、1年次及び3年次に各系を横断的に学ぶことで幅広い専門的な知識と俯瞰的に捉える力を養成する。また、実験・実習・演習系科目及び卒業論文により自律・協働する力と物事をかたちにする力を養成する。加えて、教員免許取得のための科目として工学に関する基礎的内容を広く学ぶ「工学概論」を開設し、工業に関連する幅広い知識を養成する。

このように、工学部創成工学科では、工学分野における体系的な専門教育と幅広い横断的教育に加え、さらに教職系科目を修得することにより、教科に関する広く深い専門的知識を有し、教科学習の指導能力、深い生徒理解、教師としての職業倫理と使命感を備えた教員の養成を目標とする。

(3)認定を受けようとする課程の設置趣旨(学科等ごとに校種・免許教科別に記載)

創成工学科(高一種免・工業)

山口県は、製造業が盛んな地域で工業高校も多く生徒数に対する工業系の学科の比率が全国平均に比べて高い地域である。そのような中で、山口県では工業の教員免許が取得できるのは2校のみであり、工業の教員を輩出することは本学科の役割のひとつであると自認している。このような背景の中、本学科の教育で養成する能力は、高等学校の工業の教員に求められる基礎的資質の形成に通じていると考え、本学科の教育目的である「深い専門性と幅広い視野を併せ持ち、科学技術の発展とイノベーションを担う創造的な工学系人材」としての能力を兼ね備えた工業の教員を輩出することを目的に本教員養成課程を設置する。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称:	山口大学教職センター
目的:	教員養成課程の管理, 運営体制の整備を行い, 組織的指導体制を確立するとともに, 学内外の教育関連機関等と連携・協働し, 教員養成及び現場教員研修の質の向上を図る。
責任者:	教職センター長(教育学部長)
構成員(役職・人数):	センター長, 副センター長(1名), 企画開発部門主事(3名), 学生支援部門主事(2名), 地域連携部門主事(3名), アドバイザー(4名) 副センター長及び各部門主事は, 大学教育職員又は契約教育職員からセンター長が指名する。
運営方法:	センター長, 副センター長, 主事のほか, 学生支援部長, 学生支援部教育支援課長, 教育学部事務長を構成員とする山口大学教職センター会議において, 以下の事項について審議し, 立案する。 (1) 教員養成の理念及び基本方針の立案に関すること。 (2) 教員養成の運営に係る企画・立案及び全学的な調整に関すること。 (3) 教員養成カリキュラムの開発及び検証に関すること。 (4) 教員養成に係るファカルティ・ディベロップメント(FD)に関すること。 (5) 教職課程の内部質保証に係る自己点検・評価に関すること。 (6) 教育実習・介護等体験活動の企画・運営に関すること。 (7) 教職相談・就職支援に関すること。 (8) 現職教員を対象とした各種研修の企画に関すること。 (9) 教員養成に関する学外機関との調整・連携に関すること。 教職センター会議は, 月に1回程度の開催を原則とする。

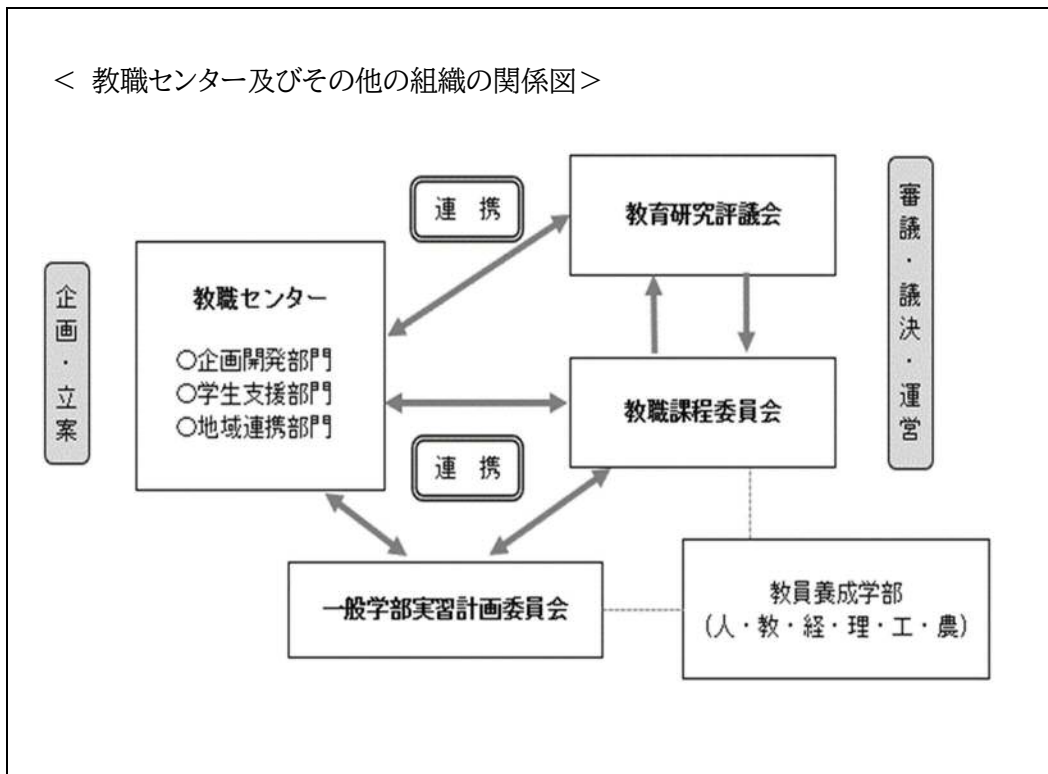
②

組織名称:	山口大学教職課程委員会
目的:	教職センターと連携し, 教職課程の円滑な実施を図る。
責任者:	教職課程委員長(教育学生担当副学長が指名した者。教職課程委員のうち, 教職センター主事と兼任している者を指名することを慣例とする。)
構成員(役職・人数):	基礎となる免許状の課程認定を受けている学部(人文学部, 教育学部, 経済学部, 理学部, 工学部, 農学部)から選出された大学教育職員(各学部2名, 計12名) 学生支援部教育支援課長 教職課程委員長が指名した者(2名)
運営方法:	教職課程委員会会議において, 以下の事項について審議し, 各学部と調整の上, これを実施する。 (1) 教員養成の運営に係る企画・立案及び全学的な調整に関すること。 (2) 教員養成カリキュラムの改善及び検証に関すること。 (3) 各学部における教職指導に関すること。

様式第7号イ

(4) 教職課程の内部質保証に係る自己点検・評価に関すること。
 教職課程委員会は、月に1回程度の開催を原則とする。

(2) (1)で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

【教育委員会との人事交流】
 山口県の公立学校教員を交流人事で大学教員として配置。
 教職科目の授業をオムニバスで担当する他、教育実習や教職指導の運営業務を担っている。

【学校現場の意見聴取】
 山口県教育委員会により設置された「山口県教員養成等検討協議会」において、教育委員会・学校と大学等が連携をし、教員の育成、採用、現職教員の育成のあり方に関することについて協議する。委員会の構成員は、教員養成課程を有する県内すべての大学等から推薦された委員11名と市町教育委員会及び公立学校関係委員4名。

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称:	学校体験制度
連携先との調整方法:	学校体験を希望する学生は、大学を通じて山口県教育委員会に申し込む。山口県教育委員会は、実施校のニーズや受入可能人数等を踏まえて調整し、学校体験を実施する学生を決定する。
具体的な内容:	教員を志望する学生が、早い段階で教員という職の魅力を実感し、教育に対する意欲を高めることができるよう、山口県教育委員会が実施する学校体験制度へ1年生の参

加を促し、参加希望者への事前指導を行っている。
 学校体験の内容は、学習活動、学校行事、部活動及びその他学校教育活動の補助であり、実施校が学校ごとに定める。

Ⅲ. 教職指導の状況

教職センターにおいて教職指導にかかる指導方針、オリエンテーション等の企画を作成、教職課程委員会を通じて学部間の調整を行い、教職センターと教職課程委員会、教職課程を有する各学部が連携しながら、教職指導を行っている。

① 教職オリエンテーション

教職課程の履修登録との位置付けで、1年後期に教職オリエンテーションを実施。各学生に教師を志すことへの自覚を促すとともに、全学の教員免許取得希望者を把握し、以後のきめ細かい指導につなげる。

② 各学部における個別面談

各学部において、毎年、年度当初に教職課程履修者に対する個別面談を行う。各学部の教職課程担当教員等が、履修カルテ等を活用し、学生と共に前年度の学修歴の振り返りと当該年度の目標の設定を行う。

③ 教職相談室における個別相談

教職センターに教職相談室を設置し、アドバイザー(校長経験者)が学生からの個別相談に応じる。相談内容は、教職を含めた進路への不安や、教育実習、教員採用試験に係ることなど多岐にわたる。

④ 教職センターにおけるガイダンス等の実施

i) 教員採用試験ガイダンス

教職センターの主事・アドバイザーが、教職志望の学生を対象に、教員採用試験に向けた取り組みを開始する契機となるよう、年2回実施。

ii) 教員採用試験セミナー

教員採用試験を目前に控えた学生を対象に、集団討論や面接への対策等を行う。複数回実施。

様式第7号ウ

<創成工学科> (認定課程:高一種免(工業))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義や教員の役割・職務内容、教職をとりまく状況や課題について理解し、自らがめざす教師像を構築する。 ・教育の理念、教育の歴史、思想についての基礎理論・知識を習得する。 ・現代社会に求められる基礎的な情報科学や外国語等を身に付ける。 ・体育の授業を通して、心身の健康を保つことの重要性和その方法を理解する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行う意義を理解する。 ・日本国憲法をはじめ、多方面にわたる基礎的な教養の習得に努める。 ・教科及び教科の指導法に関する科目については、工学分野の基礎科目を履修し、理解する。
2年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育方法・技術の基礎を理解修得する。 ・教育法規の基礎的な知識を習得し、教育の諸問題について法的な観点から説明できる。 ・教育現場の心理学の基礎的な知識と共に日常生活における様々な教育的営みに対して科学的な観点から考察する能力を修得する。 ・現代の学校や生徒の実態および課題について把握し、生徒指導を行なうために求められる態度や技術の基礎を獲得する。 ・教科及び教科の指導法に関する科目については、工学分野の中心的な専門科目を履修し、工学分野の技術者として基盤となる知識・技能を身に付け、授業開発や教材分析に繋げることを目指す。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の変遷と現在の位置づけや内容を理解する。学習指導要領をもとに特別活動の目標、内容、指導方法を理解する。 ・学校教育の中で教師として求められる教育方法・技術に関わる基本的な視点を獲得し、指導のために必要とされる方法的・技術的力量の基礎を身に付ける。 ・教科指導においてICTを効果的に活用した分かりやすく、深まる授業を実現するための基礎的な指導法を身につける。 ・工業科教育の目的や意義についての理解を深め、工業科教師としての指導理念や心構えの確立と教科についての基礎的な知識を習得する。 ・教科及び教科の指導法に関する科目については、工学分野の中心的な専門科目を履修し、工学分野の技術者として基盤となる知識・技能を身に付け、授業開発や教材分析に繋げることを目指す。
3年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・教員や学校に求められている課題を理解するとともに、教育相談および進路指導を行う際の実践的知識を身につける。 ・工業科教育の目的や意義についての理解を深め、工業科教師としての指導理念や心構えの確立と教科についての基礎的な知識をさらに習得する。 ・教科及び教科の指導法に関する科目については、工学分野の応用的な専門科目を履修し、工学分野の技術者としてのより深い知識・技能を身に付けるとともに、工学分野を広く学ぶことで、深い専門知識と幅広い視野を持って、授業開発や教材分析に繋げることを目指す。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の目標及び内容、育成する資質・能力、指導の手だてや評価の方法について理解し、年間指導計画および単元計画を作成できる能力を獲得する。 ・教科及び教科の指導法に関する科目については、工学分野の応用的な専門科目を履修し、工学分野の技術者としてのより深い知識・技能を身に付け、授業開発や教材分析に繋げることを目指す。
4年次	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・「教育実習」においては専門教科について観察・実習を行うとともに、学校教育活動全般にわたって教師の仕事を直接・間接に経験し、実践力を培う。その際、教育実習校の教育目標・学習到達目標達成を目指すとともに、自ら立てた「教育実習の目標」の達成に向けて精進する。 ・教育実習の事前・事後指導において、事前指導では教育実習に参加する上で必要な知識・技能や心構えについて再確認するとともに、事後指導では自己の教育実践を振り返り、次年度の教育実習に向けて自己分析によって改善すべき点を把握する。
	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・「教職実践演習」が全学年を通じた「集大成」の科目であることを踏まえ、教員として求められている使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、生徒理解や学級経営等に関する事項、教科内容等の指導力に関する事項について確認する。 ・これまで記録してきたカルテを振り返り、自己にとって何が課題であるか自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教員生活をより円滑にスタートできるようにする。

様式第7号ウ(教諭)

<創成工学科>(認定課程:高一種免(工業))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職概論A			データ科学と社会Ⅰ	
		教育原論A			データ科学と社会Ⅱ	
					スポーツ運動実習	
	後期				英語会話Ⅰa	
		教育課程論(カリキュラム・マネジメント含む。)A	線形代数及び演習		日本国憲法	
			工業数理		運動健康科学	
		プログラミング基礎及び演習		英語会話Ⅰb		
2年次	前期	特別支援教育A	工業熱力学Ⅰ			
		教育法規A	材料力学Ⅰ			
		教育場面の心理学A	機械材料基礎			
		生徒指導概論A	機械基礎製図Ⅰ			
			流体工学Ⅰ			
	後期	特別活動A	工業熱力学Ⅱ			
		教育方法学A	材料力学Ⅱ			
		授業におけるICT活用A	基礎制御工学			
		工業科教育法Ⅰ	機械基礎製図Ⅰ			
			機械工作学			
3年次	前期	教育相談・進路指導A	工学概論			
		工業科教育法Ⅱ	データサイエンス技術			
			機械設計論			
			航空・宇宙機概論			
	後期	総合的な学習の時間指導法A	航空原動機			
			機械航空工学演習			
4年次	前期	教育実習(高)				
		事前・事後指導				
	後期	教育実践演習(中・高)				